

看護学同窓会便り No. 14

平成30年11月23日発行
連絡先
電話・FAX 095-819-7946
同窓会事務局 中尾

会長あいさつ

会長 浦田 秀子

会員の皆様におかれましてはお健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

この1年も自然災害が頻発し、被災された同窓生の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。8月末の台風21号、それに引き続く北海道胆振東部地震といつもどこかで災害が起きています。お陰様で日常を保つことができている生活に唯々感謝しかありません。

今年も保健学科の卒業生75名の新入会員をお迎えすることができました。母校は1903年に長崎県立長崎病院附属看護婦養成所として発足し、今年で115年となりました。1945年の原子爆弾による惨禍に遭いながらも継承され続けた長崎大学の看護教育が、しっかり若い世代に引き継がれていくことを嬉しく思います。

私ごとながら、9月8日、9日に開催された一般社団法人日本放射線看護学会第7回学術集会の会長をつとめさせていただきました。学術集会のテーマを「つなぐ つむぐ おりなす 放射線看護学～すべての看護職者の学びの集積から～」として放射線看護発祥の地長崎から放射線看護の専門性の確立、放射線看護学の構築に向けエビデンスを蓄積していくことの重要性を発信いたしました。現代の医療において放射線利用は欠かせないものであり、多くの看護職者は日々、放射線診療を受ける対象者と関わっています。そして、東日本大震災後の東京電力福島第一原子力発電所事故においては放射線被ばくや健康影響に関する知識の重要性を痛感いたしました。したがって、すべての看護職が放射線看護に関する基本的な知識・技術は必要と言えます。それぞれのセッションで、放射線看護教育や放射線防護等に関して熱心に討論されました。また、会長講演の中で「自らも被爆し、救護活動した看護師語り」として、久松シソノ姉、宮崎トミホ姉先輩たちの活動をお話しました。このような偉業を長崎大学の記憶としてつなぐこと、そして原爆の悲惨さを継承していくことを参加者の皆様と共有できました。2日間にわたり、多くの方にご参加いただき盛会に終わることができました。

今年も11月23日に同窓会総会、懇親会を開催いたします。会員の皆様にご参加いただき、親睦を深めていきたいと思っております。是非、お誘いあわせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。同窓会員の皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



平成29年度庶務報告

- 平成29年度入会者 76名
平成30年度入会者 75名
- 経過報告
 - 同窓会総会 平成29年11月23日
 - 理事会開催 3回
 - 慶弔
 - 物故者へ弔電
 - 原爆慰霊祭に浦田会長献花、生花寄贈
 - 看護学研究奨励賞運営
 - 同窓会だよりNo.13発行

同窓会員数

総数	3,929名
養成所	271名
厚生女学部	134名
看護学校	1,298名
医療短大	1,200名
保健学科	1,002名(医療短大の卒業生7名を除く)
修士課程	20名(看護学校、医療短大、保健学科の卒業生26名を除く)
名誉会員	1名
準会員	3名



平成30年9月25日現在

表彰者

瑞宝単光章 萩原 絹子 看護28回生



ホームページのご案内

長崎看護学同窓会のホームページで皆さまへのお知らせやご報告、ニュースレターなどの情報発信を行っております。平成30年9月よりセキュリティ強化のためURLが一部変更されております。

(旧URL) <http://www.nagasaki-kango.org>

(新URL) <https://www.nagasaki-kango.org>

“http”が“https”と変更されました。ご留意願います

がん第二次予防活動に従事して

NPO法人ピンクリボンながさき 理事長 内海文子(看学18回生)

特定非営利活動法人(Non Profit Organization略NPO法人)ピンクリボンながさきを設立し理事長として、乳がんの早期発見・早期治療の啓発運動をはじめて12年目を迎えました。

この活動を始めたのは、福岡にある国立病院機構九州がんセンターに勤務し看護部長を務めているときでした。2004年から長崎県立大学看護栄養学部看護学科に勤務することになり、長崎県での乳がん活動の現状を知り、第二次予防啓発活動を志すことになりました。

ピンクリボン運動は2000年ごろから、日本国内でもはじまり、乳がんの早期発見、早期治療を行う必要性がアピールされました。乳がんは30代40代の若年層にも多く、早期発見早期治療によりほとんど命が助かるということも理解されておりませんでした。2005年、乳がん専門医、長崎県など行政機関、長崎県立大学、長崎大学など、多くの方々の支援をうけ、「第1回ピンクリボンフェスタ」を長崎県美術館で開催し、来場者300名に参加して頂きました。その後、長崎県下の各市で「ピンクリボンフェスタ」を年1回開催しています。

NPO法人ピンクリボンながさきの主な活動を、ピンクリボンフェスタの開催、女性がんに関する講演活動、様々なイベントでのブース出展、ピンクリボン関連のライトアップやバス運行、メディアでのPR活動、患者・家族からの相談支援などを年間にあわせて実施しています。

来年度、平成30年から第3期がん対策推進基本計画が始まります。平成19年に、第1期がん対策推進基本計画(以後、基本計画という)が策定され、質の高いがん治療が展開され、がん診療推進拠点病院等も整備されました。平成24年には第2期の基本計画が策定され、がん患者の視点から緩和ケアの充実やがんの早期発見をめざして検診を充実すること、がん患者への相談支援や就労支援などの対策が進められました。第3期では、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す」事が目標となり、がん教育、がんに関する知識の普及啓発に重点がおかれ、がん患者の在宅医療の充実なども含め、これまでの対策の充実が図れることになると思います。

国民の2人に1人ががんに罹るとき、がん患者とその家族本位のがん対策が推進されることを心から願うばかりです。

振り返れば、私の活動の原点は長崎大学医学部附属看護学校にあると思います。自由闊達な雰囲気、学生個々のその人らしさを尊重した教育を受けたと自負し、また感謝しています。

これからも、社会でのボトムアップ活動の意義を十分に認識してNPO活動を続けていきたいと思えます。



「看護師になって」

平間 理子(保健学科13回生 長崎大学病院 小児科)

今春、大学を卒業し、長崎大学病院の小児科病棟に勤務させていただいています。憧れていた場所で働くことができることに胸を高鳴らせて始まった看護師の仕事、あっという間に半年が過ぎてしまいました。初めての経験ばかりで、毎日覚えなければならぬことが多く、きつさは想像以上でしたが、丁寧に指導して下さる先輩方のおかげで、毎日やりがいを感じています。そして、できなかったことができるようになる喜びや、子どもたちが元気になって退院していく姿を見送る喜びも味わっています。看護師の仕事は、大きな責任があることを改めて感じ、不安になったり怖くなることも度々あります。命に関わる仕事をしている以上、逃れられない壁だと思っていますが、不安を感じるのには自分の勉強不足や経験不足が原因であると考え、勉強しなければと日々自分に言い聞かせ頑張っているところです。

小児科は、病院の中で唯一健康で、本来なら入院する必要のない人が入院している場所だとある方に教わったことがあります。それは、子どもたちを必死に支え、一緒に闘っているご両親や家族のことです。わが子を思い、仕事もプライベートも全て犠牲にして、必死に頑張っているご両親を見ると尊敬の気持ちでいっぱいになります。しかし、ご両親が辛い時に力になりたいと思っても、うまく言葉がでてこなかったり、どう関わるのが良いのかこの半年で一番悩みました。私の中で、まだ最適な関わり方の答えはでていませんが、子どもたちだけでなくその家族にも寄り添って、あたたかい看護師になりたいと思っています。そして、私は「ハンディのある子どもたちとその家族の力になる」ことが子どもの時からの目標です。まだまだ未熟な私ですが、多くのことを経験しながら、毎日少しずつ成長し、自分の目標に向かって精進していきたいと思えます。

活動報告—認定遺伝カウンセラーとして—

渡名喜海香子(保健学科7回生、保健学専攻修士課程10回生)

長崎大学保健学科7回生の渡名喜海香子と申します。現在、長崎大学病院ゲノム診療センター遺伝カウンセリング部門で認定遺伝カウンセラーとして働いています。認定遺伝カウンセラーとは「遺伝医療を必要としている患者や家族に適切な遺伝情報や社会支援体制等を含む様々な情報提供を行い、心理的、社会的サポートを通して、自律的な意思決定を支援する保健医療・専門職」です。

長崎大学を卒業後、産婦人科クリニックで助産師として働く中で、出生前検査の受検を悩む夫婦や胎児に先天性疾患がある可能性を指摘された夫婦、出生後に先天性疾患がわかった児のご家族に関わることがありました。しかし、私が提供できる出生前検査や遺伝医療に関する知識は少なく、また、どのような支援が必要なのかわからずにいました。そのような時、長崎大学在学中にお世話になった先生方に遺伝看護・遺伝カウンセリングコースへの進学を勧められ、4年目の年に進学しました。

私が認定遺伝カウンセラーに興味をもったきっかけは、出生前検査や先天性疾患でしたが、現在は遺伝性腫瘍、神経難病など様々な疾患に関する遺伝看護・遺伝カウンセリングに携わっています。認定遺伝カウンセラーとして働く中で、看護を学び、助産師として働いた経験が強みとなる部分が多くあると感じています。遺伝カウンセリングを受けた経験、ご自身やご家族の遺伝性疾患の受け止め方、遺伝学的検査を受けた意義等、当事者やその家族にとってどのような経験だったのか、一緒に振り返り、今後の生活へと繋げていくことができるよう継続的な関わりをしたいと日々努力しています。

みなさまは「遺伝」という言葉に、どのようなイメージをもっていますか。「難しい」「苦手」「自分とはあまり関係のないこと」と感じている方も少なくないと思います。遺伝医療は外科、内科、産婦人科、小児科等様々な科や疾患に関係します。また、人の身体的设计図となる遺伝子のちょっとした変化が人の特徴を作ります。例えば、目の色、髪の色、身長、血液型、えくぼ、などなど。一つの特徴だけをみれば、同じ特徴がある人はたくさんいます。しかし、たくさんの特徴をみていくと、組み合わせはとてたくさんあること(多様性)、全く同じ組み合わせをもつ人はいないこと(唯一性)がわかります。遺伝について勉強をすればするほど、人の身体の複雑さに驚かされています。

最後に、認定遺伝カウンセラー認定養成課程が開設されているのは全国15大学院ですが、九州では長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻だけです。遺伝について、共に学び、共に悩んでくれる仲間がたくさん増えてくれることを願っています。

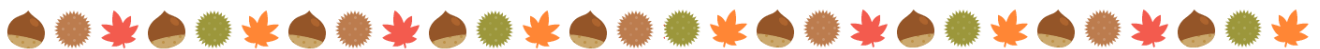
患者さんやその家族の力に少しでもなれるよう、経験を積み、努力し続けたいと思います。



保健師教育をめぐる状況について

中尾理恵子(医短3回生 長崎大学医学部保健学科 公衆衛生看護学分野)

少子高齢化と人口減少による地域生活への影響や在宅療養を支える地域包括ケアの推進、どこに住んでいても本人が望む生活が全うできる支援の必要性など、近年の日本の地域社会の健康課題はとて複雑多様です。このような状況のもとで、地域で活躍できる分野横断的な総合力をもった保健師の養成が求められています。保健師国家試験の出題基準(平成30年版)では、「健康問題の複雑化や健康格差の拡大等の社会背景を踏まえて、地域住民や多職種・他機関と連携・協働しながら健康課題を解決することおよび施策化できること」を保健師に求める役割や能力と記しています。一方、4年制大学における看護学教育のモデル・コア・カリキュラム(平成29年)においては、「様々な場面で人々の身体状況を観察・判断し状況に応じた適切な対応ができる看護実践能力を持ち、患者中心の医療の実現に向け、チーム医療や多職種連携の一員としての役割を果たし、看護の専門性を発揮すること」を看護専門職に求めています。現在、260以上の4年制大学の多くは、選択制教育によって保健師国家試験受験資格を得られる教育課程をもっていますが、前述のような社会情勢を踏まえ、文科省および厚労省、看護協会は大学院修士課程で保健師教育を行うことを推奨しており、既に保健師大学院教育を行っているところも少しずつ増えています。長崎大学においても、将来的には保健師教育を修士課程に移行することを検討しており、社会に求められる高い専門性を持った保健師養成をしていきたいと考えています。



物故者のお知らせ

お知らせいただいた方を掲載しております

貞松チヨツル(旧姓 境)	養成所13期生	逝去日	平成29年 5月16日
佐川 ギン子(旧姓 金田)	養成所21期生		平成29年11月13日
田中美智子	養成所22期生		平成27年11月 4日
中村 和代(旧姓 竿浦)	養成所23期生		平成29年
本多富美子	厚生女学部1回生		平成30年3月2日
小川 聡子(旧姓 鬼塚)	看学11回生		平成28年
本田美千江(旧姓 熊本)	看学22回生		平成30年8月1日



平成30年度看護学研究奨励賞受賞者 ならびに次年度募集について

本年度の看護学研究奨励賞に5題の応募があり2題が採用となりました。応募数が定着してきていることを大変嬉しく思います。主に大学院生からの応募ですが、臨床からの応募もお待ちしています。総会では授賞式とともに、昨年・一昨年授賞された研究2題の発表を予定していますのでぜひご出席下さい。

〈本年度受賞の研究課題〉

- ①「高度生殖補助医療を受けた患者のQOLに影響する要因」
石橋理恵子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座助産師養成コース)
- ②「日本語版CS-DS(ダウン症者の認知評価尺度)の信頼性と妥当性の検証」
高尾 真未(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻遺伝看護・遺伝カウンセリングコース)

〈総会で発表予定の研究課題〉

- ①「精神科領域における患者-看護師間のコミュニケーションに関する研究」
小川 るみ(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻精神障害リハビリテーション学分野)
- ②「遺伝学的検査を受けた児の検査結果説明までの親の経験」
永井真理子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻遺伝看護・遺伝カウンセリングコース)

☆次年度も以下の日程で募集しますのでご応募ください。

応募期限:平成31年6月20日～7月20日 詳細については下記までお問い合わせ下さい。
問い合わせ先:勝野久美子
(長崎北病院 Tel 095-886-8700
e-mail:kita_k_katsuno@shunkaikai.jp)



平成30年度看護学同窓会理事名簿

役職・氏名	卒業回	所属・連絡先
名誉会長 加藤 奈智子	看学2	
会長 浦田 秀子	看学21	原爆後障害医療研究所 819-8515
副会長 萩原 絹子	看学28	
勝野 久美子 (看護学研究奨励賞担当)	看学27	社会医療法人春回会 長崎北病院 882-7008
書記 小渕 美樹子 中尾 恵理子	看学36 医短3	看護部・819-7522 医学部保健学科 819-7946
会計 鳥越 絹代 齋藤 美保	医短1 医短2	8階西病棟 819-7398 看護部 819-7523
監査 下田 澄江 田添 京子	看学20 看学22	
学外理事 平湯 路子 荒木 宣代 山口 則子 林田 英子 久松 千鶴香 鈴木 尚子 鈴木 由布子	看学6 看学10 看学15 看学21 看学26 看学30 保健学科6	
学内理事 高橋 眞弓 森藤 香奈子 (看護学研究奨励賞担当) 大山 祐介	看学25 医短10 医短15	看護部 819-7525 医学部保健学科 819-7981 医学部保健学科 8419-7915
福田 昌恵 中村 千代美 片山 哲也 張川 恭子 森下 暁	看学34 看学36 医短8 医短10 保健学科2	手術部 819-7424 11階西病棟 819-7798 11階東病棟 819-7391 手術部 819-7424 緩和ケアセンター 819-8555

編集後記:長崎県立長崎病院附属看護婦養成所から長崎大学医学部保健学科へ受け継がれたバトンも歴史を刻み、保健学科の卒業生が1000名を超えました。また修士課程を修了し、全国で活躍する仲間も増えてきています。歴史ある長崎の看護教育のもとに質の高い看護を全国に発信できていることをうれしくおもいます。

(保健学科2 森下暁)